

第 3 回 氷見市総合計画審議会 会議録

日 時	平成23年7月28日（木）14時00分から15時58分まで	
場 所	氷見市役所 第2・第3委員会室	
出席者	委員	<p>石出会長、前田副会長、上野委員、大引委員、川上委員（代理出席：伊藤氷見市農業協同組合専務理事）、久保委員、越田委員、竹内委員、田嶋委員、田中委員、土居委員、中川委員（代理出席：豊岡氷見警察署地域課長）、中本委員、七尾委員、西野委員、姫野委員、堀川委員、本川委員、松波委員、圓山委員、村田委員、森委員、森本委員、山岸委員、横山委員（出席25名） （欠席4名）</p>
	市	<p>堂故市長 策定委員会（棚瀬副市長、前辻教育長、定塚企画振興部長、金谷総務部長、宮本市民部長（代理出席：池田福祉課長）、江添建設農林部長、西塚総務部防災・危機管理監、七瀬会計管理者、野議会事務局長、山崎教育委員会理事・教育次長 有島消防長）事務局（桶元企画政策課長、外6名）</p>
次 第	<p>1 開 会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 議 事 (1) 部会報告について（事務局より説明） (2) 基本構想（案）の検討について (3) これまでの取組みについて (4) 意見交換 (5) 事務連絡 5 閉 会</p>	
資 料	<p>資料1 氷見市総合計画審議会暮らしづくり部会の意見等について 資料2 氷見市総合計画審議会人づくり部会の意見等について 資料3 氷見市総合計画審議会元気づくり部会の意見等について 資料4 第8次氷見市総合計画基本構想（案）の構成について 資料5 第8次氷見市総合計画基本構想（案）目指すまちの姿について 資料6 第8次氷見市総合計画基本構想（案）施策体系図 資料7 第8次氷見市総合計画基本構想（案）重点プロジェクトについて 資料8 市長のまちづくりふれあいトークの主な内容について</p>	

1 開 会

[事務局]

- ・定刻となったので、只今から第3回氷見市総合計画審議会を開催する。
(1名の新委員を紹介。欠席者等について事務連絡)

2 会長あいさつ

[会長]

- ・皆様には、多忙にもかかわらず、第3回の審議会への参加をいただき感謝申し上げます。また、先日の部会において活発なご議論をいただいたことについてもあわせて感謝申し上げます。
- ・氷見市においても、今回の震災を教訓とし、地域の支え合いや協働を重視するとともに自然の脅威に対応する知恵や先見性を持ち、備えを十分にして、すべての市民の命と暮らしを守っていく施策を総合計画に盛り込んでいかなければならないと感じている。
- ・今回の計画が氷見市に元気を与え、未来に大輪の花を咲かせられるものになればと考えている。
- ・本日議題となっている「部会報告」は、5月に3つの部会において、掘り下げた議論を行っていただいた内容をお示しいただくものであり、また「基本構想」は総合計画の土台となるもので、まちづくりの基本的な考え方を示すものであり、本日集中的にご審議いただく。委員の皆様には忌憚のないご意見をお願いしたい。

3 市長あいさつ

[市長]

- ・委員の皆様には、お忙しい中、お時間をいただき感謝申し上げます。また、部会に分かれて熱心にご発言いただき、重ねてお礼申し上げます。
- ・前回の会議では「基本構想の骨子」などについてご審議いただいた。本日の議題は、第8次総合計画の基本構想の中でも中心をなす、「目指すまちの姿」、「まちづくりの基本理念」および「施策の大綱」などとなっている。
- ・今度の総合計画では変化に富んだ今後10年間で予想されるが、その中であっても重点的・戦略的に取り組む重点プロジェクトとして、食を切り口として氷

見を元気にする「食のブランド創造・発信プロジェクト」や、氷見の明日を担う子どもたちを大切に育て上げる「あったか子育て充実プロジェクト」を設定している。

- ・大震災で政局が混乱している中で、地域主権への舵は切られたと思っている。氷見らしいまちづくり、市民と行政と企業体が協働で取り組むという姿、そして、見通しのつきにくい情勢の中にあっても持続可能でやりくりのきく行政体を目指していくことが今回の計画でも大変重要なテーマになる。これらを踏まえて、委員の皆様にはご審議を深めていただくよう、よろしく願い申し上げます。

4 議 事

(1) 部会報告について

[事務局]

- ・説明に入る前に、部会での意見・提言の取り扱いについて申し上げます。
- ・部会での意見・提言は部会報告として総合計画審議会の全体会で報告し、全委員の確認をいただいたうえで、総合計画審議会の意見・提言とすることとしている。したがって、本日の会議で部会での意見・提言を報告させていただき、皆様にご確認をいただいた後、総合計画審議会の意見・提言として第8次総合計画に反映するよう意見を付して、総合計画策定委員会に提出されることとなっている。また、ホームページにも掲載することとしている。ご了承のほどよろしく願いしたい。

(事務局より、資料1「氷見市総合計画審議会暮らしづくり部会の意見等について」、資料2「氷見市総合計画審議会人づくり部会の意見等について」、資料3「氷見市総合計画審議会元気づくり部会の意見等について」の説明)

[会長]

- ・只今の説明について、ご意見を承りたい。

[委員]

- ・暮らしづくり部会の意見について、文章の訂正をお願いしたい。「1 保健・医療・福祉について」の中で「病院間の機能分担ではなく、一次医療・二次医療

の分担の連携を重視し」とあるが、この文章では病院の機能分担は重要でないようにも取れる。「一次医療・二次医療の分担と連携を重視するとともに、病院間の機能分担を行い」と修正したほうがよい。

[会長]

- ・今の表現に訂正し、報告する。
 - ・他の部会についても何かご意見があれば承りたい。
- (特に意見なし)

(2) 基本構想（案）の検討について

(事務局より、資料4「第8次氷見市総合計画基本構想（案）の構成について」、資料5「第8次氷見市総合計画基本構想（案）目指すまちの姿について」、資料6「第8次氷見市総合計画基本構想（案）施策体系図」、資料7「第8次氷見市総合計画基本構想（案）重点プロジェクトについて」の説明)

[会長]

- ・説明いただいた基本構想は総合計画の土台となるものであるから、じっくり審議していきたい。ご意見・ご質問等があれば発言をお願いしたい。

[委員]

- ・まちづくりの基本理念の中で氷見市が目指すのは「全国ブランドのまち・氷見」と書かれているが、もう少し具体的に、どのようなことをイメージしているのかをお聞きしたい。

[事務局]

- ・重点プロジェクトの中でも、食を1つの切り口とした全国ブランドのまちを目指すこととしているが、その幅を更に広げて自然や環境等も含めて、真に質の高い生活ができるまちとして全国から評価いただけるまちを目指すという思いで今回提示させていただいた。

[委員]

- ・全国から認められるといった外からの評価ではなく、氷見市に住んでいる人を主体とした考え方が大事なのではないか。全国から評価されることを目標にしても、皆がそれに向かって進もうとはならないのではないか。氷見に住んでいる人のための目指すまちという記述がほしい。

[事務局]

- ・総合計画策定の基本姿勢として、氷見市に住んでいる方が幸せを実感できる計画でなければならないと考えている。その思いをこめた部分を基本理念の後段にも表現させていただいたと思っている。

[委員]

- ・基本理念の全体は良くわかるし、すべて網羅されていると思う。ただ、括弧の中の短い言葉に、基本理念がギュッと詰まったものにしてほしい。皆が見て納得し、素晴らしいと思うような言葉にしてもらいたい。「全国ブランドのまち・氷見」という言葉は号令のように聞こえる。

[事務局]

- ・今いただいたご意見を今後の参考とさせていただきます。

[市長]

- ・「全国ブランドのまち」という言葉は掛け声のようであり、私が言い出したのかも知れない。ただ、去年の暮れに天皇陛下にお目にかかったとき、「寒ぶり」について誉めていただいた。このように外から認められることで内からエネルギーが出てきて、まちづくりに対するエネルギーが出てくることもあると思う。食という一芸に秀でていることがすべてに良い影響を及ぼす。例えば、氷見という名前がやさしいイメージがあったり、美味しいイメージがあったり、もてなしの心を連想させたりする。また、市民が自信を持つといった好影響が生まれるので、食だけではなく、生き方についてもしっかりやっていこうといったそういう言葉があればいいのかなと思う。良い提案があればどんどん聞かせていただきたい。食だけではなく、福祉や人づくりといった分野でも自信を持って前へ進んでいける何かサブタイトルのような言葉があれば良いと思い、基本理念に入れてみたが、内からにじみ出る言葉だけで十分通じるということであれば、こだわる必要は無いと考える。

[会長]

- ・まだ検討の余地があるということだが、この部分は今後のキャッチフレーズ的なものとして取り扱われることになると思うので、非常に大事な言葉である。他の委員の皆さんも何か良いアイデアがあればご提案いただきたい。

[委員]

- ・防災については、暮らしづくりの「安全・安心につつまれた生活の確保」の前段の部分に記載されているが、後段の部分には消費者問題が記載されている。せっかく防災の切り口でまとめてある文章の中に消費者問題が入ってくると少しピンとがずれてしまう感じがする。第8次総合計画の施策体系図で見ても「消費者保護の充実」はどうしても違和感があるので、別の項目としたほうが良いのではないか。防災については市民の関心が高い事項であるので、しっかりと項目に挙げたほうが良いと思う。

[事務局]

- ・施策の重点は委員のおっしゃるとおり防災、消防救急、交通安全対策であり、市民意識調査でも非常に関心が高かったことについて記述させていただいている。ただ、安全・安心という問題をトータルで考えた場合に、高齢化が進んでいく中で高齢者を取り巻く様々な被害が出ているというご意見が前回の審議会でもあったこと等もかんがみ、今回、消費者生活ということもここで取り上げている。食の安全という部分も今回の大震災等でクローズアップされているということで、この二つをここに掲げさせていただいた。ただ、計画としてのわかり易さという面では、消費者生活という部分について別な施策の中に織り込むことも可能かどうか策定委員会等で検討させていただく。

[委員]

- ・重点プロジェクトについて、前回提案があった「美しいふるさと創生プロジェクト」を『『きれい』ふるさとプロジェクト』に変えたのはなぜか。自然景観や生態系を保全するのは「きれい」なばかりが保全ではないし、内容の文章の中にある、環境にやさしい省資源・省エネルギーについても「きれい」という言葉で括れるのか非常に疑問である。「きれい」というと内面よりも外見といったイメージがあり、内容と見比べたときに違和感がある。

[事務局]

- ・プロジェクトの方向性については、この案で確定するわけではない。ご意見をいただいてより良いものにしていく。今回、『『きれい』ふるさとプロジェクト』を提案したのは、前回の審議会でも委員の中から「きれい」というキーワードを氷見の今後の目指す方向として位置づけてはどうかとのご意見をいただいたからである。それを受けて事務局でまとめたものだが、外見だけではなく心身の

「きれい」という切り口もあるので、また、ご意見を賜り、より良いものにしていきたい。

- ・プロジェクトのネーミングについても今回の提案以外に良い案があれば提案いただきたい。

[委員]

- ・プロジェクトを「きれい」にこだわってやるなら内容を変えないといけない。内容をそのままやるならタイトルを変えないといけない。

[委員]

- ・変に誤解を招くような変更はしないほうが良い。

[委員]

- ・食の安全・安心について、現在、原発事故が原因で起こった牛肉の問題を受けて、国民の関心も非常に高い。「暮らしづくり」に置くのであれば、別項目を立てるくらいの意味合いがあると思うし、そうでなければ、「元気づくり」の①の「氷見の食・ブランドの確立」にも安全・安心という言葉が出てきているので、項目名を少し工夫する等、氷見の食品は安全・安心が基本だということをもう少ししっかり出すことが必要ではないか。
- ・防災の項目を読むと、地震とか台風とか、事があつたら云々という非常時に備えるというニュアンスが強いが、氷見市が抱える土地条件等を考えると、地すべり防止等の日常的な取組みを着実にいき、生活基盤を確保していくといったトーンをもう少し色濃く出したほうがよい。
- ・人づくり部会の意見に、農業等の後継者を育てる上で氷見高校はとても大切とある。氷見高校という人材育成の最も大切な基盤が市内にあるのに、それを使って氷見市を支える人材をどう育成していくのかということが何も書かれていないのはさびしい気がする。
- ・元気づくり部会でも話があつたが、単に食品のブランド化を図るという考えだけでなく、食を楽しむ氷見ブランドといった食を中心に氷見全体をブランド化していくといった、もう少し大きなスケールの言葉の使い方があっていいのではないか。もう少し「オール氷見」で売っていくということが分かる幅広い表現が良いと考える。
- ・耕作放棄地の増加や鳥獣被害について触れられていない。人々の生活に直結す

る部分である。現在は基本構想の段階なので細かい話はもっと後で入ってくるかと思うが、市民の皆さんが安心していただけるような方向性をこの段階でも打ち出しておくべきではないかと思う。

[事務局]

- ・食の安全・安心についての「元気づくり」への組み換えは、今後検討する。
- ・有事の対応だけでなく、日頃からの防災環境づくりをプロジェクトに盛り込むことについてはおっしゃるとおりであり、各課と相談しながら考えてまいりたい。
- ・氷見高校を利用した人材育成については、各委員の提言の中でそういった部分を含めて、農業、水産業といったものを代表選手として挙げているものである。
- ・食を中心とした氷見ブランドといった表現については、「食の氷見ブランドの総合力を高めることで、地域イメージの向上とまち全体のレベルアップを図ります。」という部分で表現したつもりである。
- ・耕作放棄地の増加や鳥獣被害については、基本計画や実施計画の中で重要な事項として盛り込んでいくべきと考えている。

[委員]

- ・1点だけブランド化について補足するが、食品のブランド化という意味ではなく、食を楽しんで氷見をブランド化するという意味で申し上げた。現在の記述では氷見の食品をブランド化するというトーンが強いので、食を楽しんでいただくことが氷見ブランドだという大きな発想で考えていただきたい。

[委員]

- ・「暮らしづくり」の①「安全・安心につつまれた生活の確保」の中で、犯罪について中段にしろうじて2行に触れられている。後段の4行では防犯に関することが書かれているが、この中で犯罪抑止等についても盛り込んでもらえないか。

[事務局]

- ・ご意見はごもっともであり、犯罪は日常的に起こっており被害者も多岐に渡っている。高齢者や子供たちへの被害も懸念されるため、大変重要な課題である。記述についてどのように取り扱うかは十分検討させていただく。

[会長]

- ・さらに検討していくということにさせていただく。他にはいかがか。

[委員]

- ・出ている資料は全部素晴らしく、実現可能なら良いと思うが、重点プロジェクトを含め氷見市の未来を話しているわけで、10年後の未来の想定があってこのプロジェクトが提案されているはずである。現在、こういう問題があるからこのプロジェクトが必要だという検討資料が無いので、内容について質問のしようが無い。各プロジェクトについて氷見市の10年後はこうであるという構想はあるのか。

[事務局]

- ・第3章の「時代潮流とこれからの氷見市」で問題を提起したうえで記述している。今回、資料をセットで提示できなかつたことは申し訳なく思っている。委員の皆様にもこの後第1章から第4章までまとまった形でご覧いただけるよう内容をまとめて提示させていただく。
- ・第2章の5「市民意識調査の概要」で昨年実施した市民意識調査の結果を提示しており、先の審議会でも結果を報告している。これも含めて全体をトータルなもので示させていただいて、第4章を書き表していきたい。

[会長]

- ・他にご意見は。

[委員]

- ・重点プロジェクトの6番目「ふるさと教育・地域リーダー育成プロジェクト」と7番目「生涯学習・スポーツ振興プロジェクト」の最初の段落の中身がほぼ一緒に感じる。子どもからお年寄りまでふるさとについて学ぶ等の取組みを一生懸命やるという内容である。これを2つに分ける意味があるのか。
- ・「人づくり」で次世代を担う子どもたちについて書いてあるが、子どもたちをどうしたいという項目が少ない気がする。先ほど氷見高校の話も出たが、やはり氷見高校を筆頭に氷見市の教育を考えたときに、「子どもたちをこうしたい」という項目が1つあっても良いと思う。スポーツでも教育でも次の10年間をにらんで能力をつけないといけない。生涯学習を重点プロジェクトの6番目に挙げて、7番目に「学力向上・スポーツ振興プロジェクト」として「こういう子どもたちを作りたい」という夢みたいなのを1つ作っていただけるとわかりやすい。全部書いてあることが大人のこと、環境のことばかり書かれている気

がするので、氷見市が掲げる教育未来像のようなものが夢としてあると明るいものになる。目指すまちの姿では少しは書いてあるが重点プロジェクトではかすんでいる。事務局の意見を聞かせてほしい。

[事務局]

- ・子どもにスポットを当て、どう育成するのかという点に特化したプロジェクトが必要ということであったと思う。おっしゃる主旨は大変重要なことなので、教育委員会と十分協議したい。
- ・1点だけ思いを述べさせていただくと、ふるさとを愛し、ふるさとに学び、ふるさとに根付く人材を育てていくことが、人間関係が希薄になっている現代において重要であるとの認識から6番目のプロジェクトを挙げている。また、地域の力が昔と比べ下がってきていることも直視しないといけない。そのため、地域に戻ってきていただいた方に少しでも社会貢献して地域のために参画いただきたいという熱い思いでこのプロジェクトを設定した。ただ、子どもたちをどのように育てていくかが次の世代のふるさとの姿に色濃く反映することは間違いないので、十分検討したい。

[委員]

- ・体系図のサブタイトルが前回提示に比べだいぶ変わっており、暮らしづくりでは「便利で快適な質の高い生活ができるまち」となっている。個人的な感覚として、便利と快適を追求するよりは前回で示していた安心ということを強調したほうが良いと思うし、利便性は安心につながる。もう少し優しい言葉に変えたら良いのかなというのが個人的な見解である。

[事務局]

- ・今いただいたご意見を踏まえて、サブタイトルについては適当な表現を考えさせていただきます。

[委員]

- ・定年退職して10年くらいが一番ボランティア活動ができる時期である。団塊世代が元気なうちに活躍できる何かをこの計画の中で考えたらよいと思う。
- ・男女共同参画についての施策が書いてあるが、氷見市における女性の管理職は何人いるのか。女性をもっと登用することでまちがもっと元気になるのではないかな。

[事務局]

- ・おっしゃるとおり、団塊の世代の方に経験と知識を色々な面で活用していただくことが大切である。できれば住んでいる地域の中で発揮してもらうことが1つの方法であると思うし、さらに、ゆとりのある時間を活用して新たな学びをすることによって得た知識をNPO、ボランティアといった場で活用していただくことも大切である。いずれにしても、色々な活動の場を提供していくことを今後基本計画の中で、考えていくべきと認識している。
- ・男女共同参画については、男女共同参画プランを今年度策定する。その審議会で協議される大切な部分を総合計画にも盛り込んでいく。

[総務部長]

- ・氷見市でも女性の登用に努めている。課長級はいないが課長補佐級はたくさん在籍している。また、窓口業務等にも女性を配置しており活躍していただいております、今後も進めていく。

[委員]

- ・重点プロジェクトの4番目に「1町19ヶ村の地域力発揮・向上プロジェクト」があり、1行目に「中山間地域等における維持・存続が危ぶまれる集落」と書いてある。このプロジェクトの背景になった事情は何か。中山間地域ならわかるが1町と入っているということは、町部もかなり厳しい状況にあるのか。また、後段に「市職員が地域づくりのコーディネーターとして支援する」とあるが、職員がどのようにして支援するのか。

[事務局]

- ・中山間地域では、限界集落に該当する地域が10箇所ある。こういった地域については集落機能の維持が深刻な問題となっている。準限界集落となると、もっと広い範囲に該当地区が広がり、その中には町部も含まれる。今までは小さな単位でやってきたが、こうした状況を考えると市内全域の新たな支え合いのシステムが今後10年においては必要であるということで、「1町19ヶ村の地域力発揮・向上プロジェクト」として提案させていただいた。また、一昔前は市職員が各村々におり、様々なお手伝いできたが、現在はできない。〇〇地区担当という風に職員を配置し、地域と行政のパイプ役となることを考えている。

[企画振興部長]

- ・小さな集落の機能が低下する中で、大きな単位の支え合いの枠組みが必要であるという意味である。

[委員]

- ・準限界集落が町部にもあるということは、10年後にはそこが限界集落になるということか。

[事務局]

- ・町部でも起こる可能性はあると考える。

[市長]

- ・村部では久目、町部では朝日丘で地域力を高めるモデル事業を実施している。旧村単位での人の力をもう少し掘り起こすことができれば、人口減少社会であっても十分対応できる部分もあるのではないか。

[会長]

- ・まだご意見等があることと思うが、本日はもう1つ議題があるので、次に進ませていただく。

(3) これまでの取組みについて

[会長]

- ・市長のまちづくりふれあいトークの主な内容について、事務局より説明をお願いする。
(事務局より、資料8「市長のまちづくりふれあいトークの主な内容について」の説明)

[会長]

- ・時間が無いので駆け足で説明いただいたが、市長からご意見を賜りたい。

[市長]

- ・本日は良いご意見をたくさんいただいた。こちらは早く取りまとめないといけないという焦りもあったかと思う。しっかり腰を落ち着けて、皆さんからいただいた言葉の重みを噛み締めて、作業を進めていく。この計画が良い計画となるよう今後とも皆さんの忌憚りの無いご意見を頂戴したい。

[会長]

- ・今日この場における発言に限らず、ご意見等あれば事務局で何時でも受け付けるので、皆様のご意見をお願いしたい。

(4) 意見交換

[会長]

- ・もう少し時間があるので、テーマに限らずご意見があれば、ご発言いただきたい。
- (とくに意見なし)

(5) 事務連絡

[事務局]

- ・基本構想に関し、会議後でもご意見がある場合には、8月12日までに提出していただきたい。
- ・本日いただいたご意見とこれからお寄せいただくご意見を、会長と事務局の間で調整し、基本構想を修正したものを改めてお示しする。
- ・次回の会議では、基本計画の素案について議論していただく。

5 閉会

[会長]

- ・本日の会議は以上とする。お忙しいところ参加いただき感謝申し上げます。